



●たまりばフェスティバルを主催するNPO法人「フリースペースたまりば」の理事長を務める

人物風土記

題字は
福田紀彦市長

西野 博之さん

千年在住 55歳

子どもの笑顔が元気の源

○「小さい子たちから人「フリースペースたまり 日には川崎市男女共同参画
もらえるエネルギーが大好き」の理事長として、日々 センターで、児童らが手作
き。不登校の児童、生徒な 多くの子どもたちの心に寄 りの演劇や演奏を発表する
どが集う「フリースペース」に添い、子育てに悩む親の 「たまりばフェスティバル」
えん」を運営するNPO法 相談に乗っている。3月7 を開催する。「子どもが良い

笑顔で生き生きと発表して 然が持つ力に癒されるか
いる姿を見ると嬉しくなる ら。これまでに屋久島の縄
し、こちらも元気になるね」 文杉をはじめ、西原生林
と優しい笑顔で話す。 玉原高原のフナ林などにも
○「東京・浅草生まれ。 訪れた。「森の木は何百年
子どもが好きで都内のフリ も立ち続け、倒木となつて
ースクールでの職員などを もなお次の命を芽生えさせ
経験し、さまざまな悩みを る。森には「命の循環」が
抱える多くの生徒と向き合 感じられ、私は芽吹きの時
ってきた。「都市開発が進ん 期が一番好きですね」
で、子どもが自由に遊べる ○「1998年からは川
場所が減ってきた。さまざま 崎市子ども権利条例の調査
まなストレスをため込んだ 研究委員会の委員を務めた
多くの子どもや、地域に居 ほか、現在は文部科学省の
場所を見つけていく子たち 「フリースクール等に関する
が、安心して過ごせる居場 検討会議」のメンバーでも
所をつくりたい」との思い ある。今年2月には、子育
から1991年「たまりば」 てに悩む親たちに向けた著
を設立。2006年からは 書『7歳までのお守りBO
市生涯学習財団と共同で OK』を出版。執筆活動も
「子ども夢パーク」を運営し 精力的にこなしている。今
ている。 後は「若者の就労支援にも
○「子どもだけでなく、 力を入れたい」と言う。子
自然とのふれあいも好き。 どもや若者の力になりたい
「森の中を歩くのが趣味。自 という情熱に終わりはない。